のなたみ
三拾編上
特別
へ13
4271
57
八ぢん伝
魯文
芳幾
玉
葉孝梓
三拾編下
特別
へ13
4271
58

のなたみ

三拾編上

特別
へ13
4271
57

へ13
4271
47

可なみ八犬傳

尊文録
芳賞画

三拾編上

廣岡

91-2300

大星氏寺岡氏對して曰其元ハ足輕でハあれども。大きゐ口輕ぢ。ナント
牽頭持ゑさられぬゾト云云僕去る嘉永の季歳亳採初二代記。
抄録物ゑゾ登庸ゑ足輕ゐゾ口徑ゐ漫題ゑ八の筆頭幇間。
太郎次郎の犬の皮太鼓ゐ張ゑ鈍作の餘業ゐ録ゑ八犬傳ゐ昔
採ゐる粁屋ゐ三弦他人の作意ゑ中途ゐ。編次ゑ。ゐる苦心ハ
一ツと勿体ゐしくゐ。ゐめゐ世ど。抄録物の哀ゑゐハ一帙上下の潤筆ゐ
鉢ゑ坊主の報謝米惜ゐ口ゐ風ゐゑ。ゐぐゐぬ述懐ゐ九太夫ゐ。歔の犬
ゐ因ゐ。ゐ。ゐ我別号の假名手本義士ゐ犬士の郷音ゐ。ゐ。ゐ

魚文記

八犬傳三十
里見義成

濱路姫
八犬傳三十
平田張盆作

傘鉾の綾の小路室町西へ入る町より出る

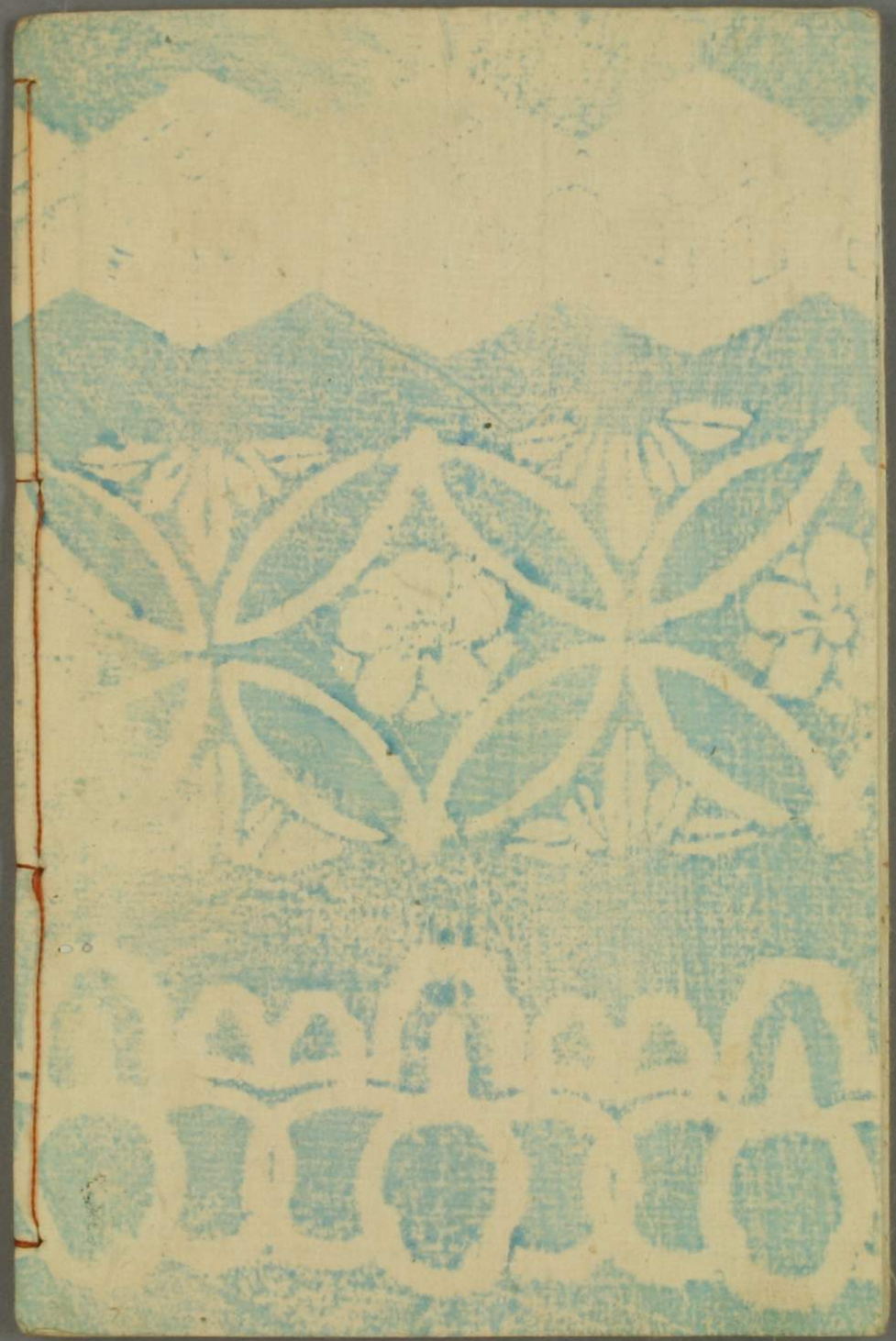
○八きん山
きんきち三ぢう
らるぐきち

○すぐう山
うくせ・九
三ぢう
上ル
きち

○ふるう屋〜山
むろきち三ぢう下ル

○馬面卒八
虎口を遁て
謄吹山の巣穴へ
帰るこゆくこと
本文ふれえ

魯文作　芳幾画



八ちん伝

魯文 採

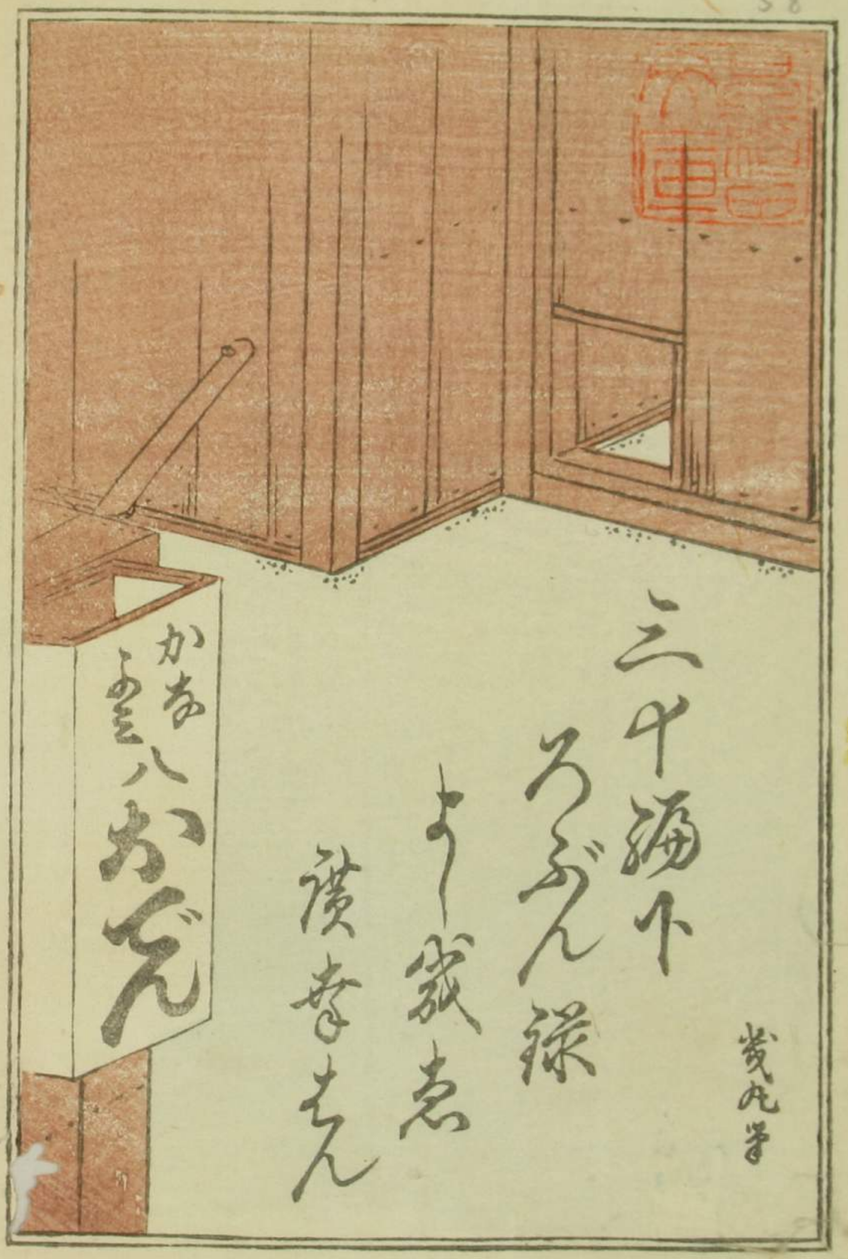
芳幾 画

榮孝堂梓

三拾編下

特別
へ13
4271
58

A13
4271
58



91-2301

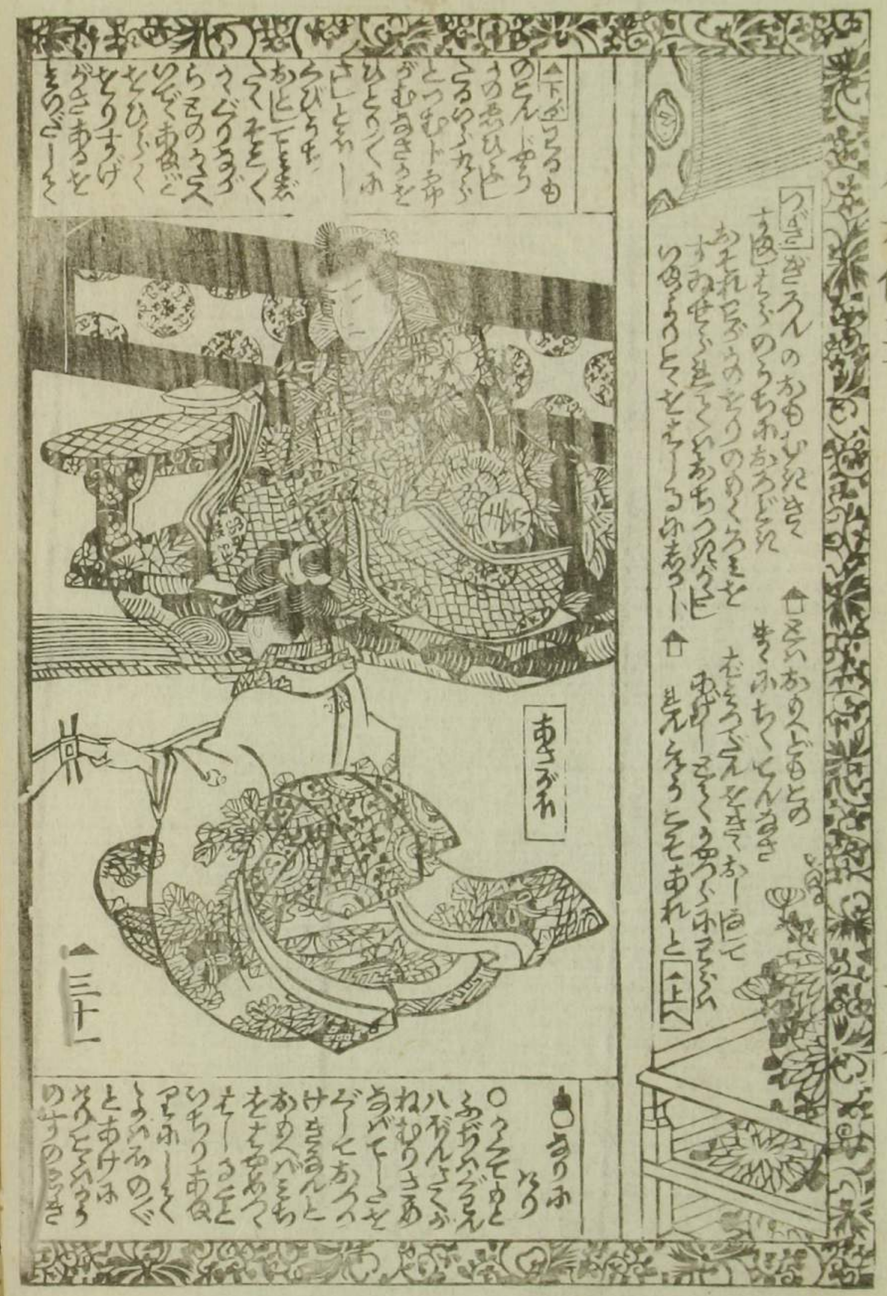
つゞき

三眼

林示 葷酒山門入

面王

八番宮
疫神


あさがれ
三十一

ゆんがれ
○此繪八分鮮
編ふるせて

魯文抄録

芳幾画圖

假名續八犬傳

三拾編

假名垣魯文録
一壺亭芳幾画
葉秀堂梓